

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/06 前期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 さらに充実「平成 27 年度版 進路のしおり」を活用しよう◆

毎年発行している「進路のしおり」ですが、本年度版が完成しました。進路に関する多くのことが盛り込まれている冊子です。今年度版も、進路指導部の近藤先生が第 1 部ガイダンス編の「職業から進路を考える」の内容を全面改定してくれました。また、面接質問例や入試のキーワードなどはすべて最新のものにリニューアルしました。また、例年以上に合格体験記のページも充実しており、内容としてはさらに充実したものとなりました。元島先生が中心になって進路指導部で作成してきました。是非使ってください。

さらに、巻末に進路学習用のワークシートを付けました。進路に関する体験学習に参加した際や LHR などでも使うこともあると思います。くれぐれもこの「しおり」をなくさないようにしましょう。

さて、進路を考える時に 3 つのポイントがあります。それを総合的に考えなければなりません、いきなりすべてを考え深めることはできませんので、学年ごとに順次考えていくことになります。

進路を考える時の 3 つの基本原則

- 〔1〕職業から考える。… 1・2 年生が主に考える観点です。
- 〔2〕興味関心から考える。… 1・2 年生が主に考える観点です。
- 〔3〕大学から考える。… 2・3 年生が主に考える観点です。

この基本原則に従って、進路のしおりは構成されています。内容と活用のポイントを確認しましょう。

<第 1 部 ガイダンス編>

第 1 章 進路を選択する【p7～74】

職業から考える

→

進路選択

←

学問から考える

この章はいろいろな資格や学問の紹介が書かれています。皆さんの進路選択の参考になるよう、図のように進路選択を 2 つの視点から考えています。先ほど述べた『進路を考える時の 3 つの基本原則』の

〔1〕職業から考える 〔2〕興味関心から考える にあたる内容です。

まずは、p8～32 までが「職業から進路を考える」に該当します。続いて、p33～73 が「学問から進路を考える」ために使える資料です。

大学の学部には医学部や看護学部などのように職業に直結するものもあれば、理学部や文学部のように職業選択が多岐にわたるものもあります。

特に、1 年生はこれから文理選択が始まります。それに向けても、いろいろな角度から進路を考えてみるきっかけになるとと思います。

第 2 章 大学・短期大学入試について【p75～93】

この章では、大学と短大の違いや、大学入試センター試験のしくみ、国公立 2 次試験や、私立大学の入学試験さらには推薦入試や AO 入試など、大学入試に必要な基礎知識が説明されています。特に湖陵生の多くが受験する大学入試センター試験については Q&A 方式で詳しく説明されています。

最近の入試は、日程や受験区分、科目選択、配点など、大学ごとに多様になり、しっかりと知識を持っていないと、いざ出願という時になって大変なことになってしまいます。特に、3 年生は昨年度から大学入試センター試験が大きく変更になっているので、進路のしおりだけでなく夏以降に発表される、募集要項などもしっかりと読むようにしてください。

第 3 章 その他の進学を考える【p94～99】

ここでは大学や短大以外の進学である文部科学省所管外学校（防衛大学校や気象大学校などの各種大学校）、専門学校、留学について、そしていろいろな進学形態（大学、看護学校など）がある看護師について説明されています。興味のある人は目を通してください。

第 4 章 進学するための経済学【p100～103】

「自分の行きたい大学の 1 年間の授業料はいくらか知っていますか。」
「大学生活で自宅外生は、1 ヶ月あたりどのくらいの生活費が必要か知っていますか。」

この章では、学費だけでなく、生活費を含めて進学後どのくらいの費用がかかるかが説明されています。どうしても進学となるとお金がかかってしまいます。一度、保護者の方と一緒に見てみてはどうでしょうか。また、あわせて進学の負担軽減として奨学金制度の説明もなされています。

第 5 章 就職・公務員を考える【p104～108】

この章は就職・公務員を希望している生徒に向けたページです。就職までの流れ、公務員の職種などが記載されています。公務員には、国家公務員、北海道職員、市町村職員などの採用先が異なるだけでなく、行政や税務、警察官などいろいろな職種があります。また就職試験に「申し合わせ事項」という大切なルールがあります。希望する人はガイダンスもありますが、一度内容を確認しておいてください。

第 6 章 学力試験以外の選抜方法と対策【p109～125】

ここでは、最近増えてきている、小論文や総合問題、面接試験など、いわゆる学力試験以外の選抜方法について、具体例をあげながら説明されています。面接の質問例なども挙げられているので、3 年生になり、面接が必要となったときに対策用としても活用できます。

面接試験や小論文試験は、志望先の教科的知識や国語力だけではなく、社会的な知識や関心、事象を見て、考える力が必要となります。普段から新聞や雑誌、書籍などで、自分で調べて考える力を養ってください。

なお、最近の面接試験は、一問一答で完結してしまうという方式ではありません。自分が答えた内容をもとに、次から次へと掘り下げていく質問が続くことも多いのです。ゆえに自分の言葉でものを考え、自分の言葉で話すことが求められます。p.118 に、「面接のポイント」という形でまとめてありますから、一読してください。

第 7 章 入試用語の基礎知識【p126～128】

ここでは主に大学入試で用いられている用語の説明が記載されています。わからない用語

があったときに開いてみてください。

第8章 模擬試験について【p129～130】

3年生の皆さんは、既に大学入試に向けた模試が始まっており、受験した生徒も多いかと思いますが、また、秋になれば毎週のように模試が行われます。志望校合格を決めた先輩方の多くが「模擬試験を大切にした」を言っています。皆さんは、これから多くの模擬試験や学力テストを受験することになると思いますが、先輩方の言う、「なぜ模擬試験が重要なのか」、そして「それをどのように活用したか」がこの章で説明されています。ぜひ一度目を通してみてください。

<第2部 資料編>【p1～28】

ここには先輩方の結果である、進路先や大学入試センター試験の結果がまとめられています。また合わせて、昨年度の指定校推薦の一覧が掲載されています。参考にしてください。

<第3部 合格体験記>【p1～40】

「私にとって国公立大の薬学部合格はかなり憧れでしたし、模試の判定もD・Eばかりで、実際かなうわけないかな、って少しあきらめの気持ちもありました。でも・・・」

「受験は本当に魔物です。本当に何があるかわかりません。余裕を持った行動が本当に大切です。」

「受験は団体戦、という言葉は湖陵生なら何度も何度も耳にしたことがあると思いますが、私自身本当にそうだなと実感しています。」

「周りからは無理だと言われていましたが最後まであきらめなかったことが合格につながったと思っています。ここでは受験において大切だと感じたいくつかのことと、自分の得意だった科目の勉強法について書きたいと思います。」

「僕が受験で一番大切だと思うことは、最後まで息切れしないことです。」

「わたしがこの体験記を通して皆さん、特に部活生の皆さんに1番伝えたいのは、やりたいことと勉強の両立はやっぱり大事だということです。ほとんどの人は、この両立が難しく悩んでいるんじゃないかと思います。・・・」

「3年のマーク模試では、判定はほぼCかBで、このままいけば、もしかする（受かる）と思っていました。本来は安心していい判定ではないのですが、自分はそれで安心してしまい、周りの人たちが本気で勉強している中、手を抜いてしまったのです。結果センター判定はE。泣く泣く北大を諦めることにしました。・・・第1志望を諦めたことへの悲しみや自分の不甲斐なさ、至らなさ、だらしなさに対する嫌悪を感じ続けました。・・・」

この合格体験記は、毎年一番活用してもらっている部分ではないでしょうか。この体験記は、受験を終えた先輩が湖陵の後輩に向けて、少しでも役に立つことをと思い、書いてくれているものです。この体験記は、教員から「こんな内容を書いてくれ」とか「こんなことは書かないでくれ」とは言わずに原稿を依頼しています。いちいちそんなことを言わなくても、書くべきことは書いてくれますし、書かなくてもいいことは、書きませんし、そのあたりの信頼ができる生徒達だということです。こういう生徒と教員の信頼関係も「受験は団体戦で

ある」という言葉の意味に入っていると考えます。また、字数についてすら、自由です。「何字以上書いてくれ」などという注文もしません。1つだけ注文をつけるのは、「後輩のためになることを」という条件だけです。

今年の合格体験記では、例年以上に成功談だけではなく、自分の失敗についても赤裸々に語られています。おそらく、それが、条件につけた「後輩達のためになる」と卒業生達が判断したからだだと思います。そんな思いを汲んで、活用してほしいと思います。「活用する」とは、この体験記を読んで、日常の何か些細なことでも「変えてみる」ということです。頑張ってくださいね。

さらに、新聞局だった卒業生の新田くんが「北大見聞録」をリニューアルしてくれました。北大入試当日の様子が手に取るようにわかります。北大以外を受験する人も是非目を通してください。問題用紙はこんな風に配布されるのかなど、いろいろわかると思います。

<巻末 進路活動ワークシート>→使用する際は教員からの連絡があります

今年度新たにしおりに、この「ワークシート」をつけました。

1 講義・体験レポート

進路に関する講話や1日看護体験学習などに参加した際などに、このレポート用紙を使うことになります。しおりを紛失しないように。

2 志望理由をまとめる

必要に応じてLHRなどで指示があると思います。何かに取り組む前と後とで（学年の前半と後半など）、志望理由が変わることがあります。目指すものが変わる人もいますが、目指すものが同じでも、内容が変わることがあります。実はそれが大切なのです。考えが深まったりするとおのずと書く内容は変わるものです。2回書いてその違いを自分で確認することが大切です。ゆえに2枚つけてあります。

「進路をもっと考えておけば・・・」と後悔する先輩方の共通点として、私が考えているのは、「志望理由を伝えていない」ということです。どこの学校を受験するかなど、結論は伝えたりしているようですが、「なぜその学校を目指すのか」「その学校に進学したら何をしたいのか」を伝えていないことがそういう先輩には多いように思います。

志望理由とは、抽象的で型にはまったものことではありません。借り物ではない、自分の言葉で、自分の思い・考えを伝えることです。ワークシートには、迷いがあることに關しては、迷いを述べてもかまいません。一番よくないことは、どこかで聞いたような言葉を適当に織り交ぜて、志望理由をごまかしてしまうことです。それは、自分をごまかすことと同じですから、上述したような後悔を抱くのも、必然です。自分の言葉で自分の志望理由を綴ることには、自分の考えを整理するという大切なねらいがあります。このプロセスを経ないと、進路を考えたのではなく、受験校を考えただけで終わるのです。

このシートは教員に提出してもらいますが、志望理由は、教員だけでなく、保護者の方や友人等にも伝えることができますね。「どこ受けるの？」という会話は友人同士ですと思いますが、なぜそこに入学したいのか、入学して何がしたいのか、なにげない雑談のなかでそんなことを伝えることができるといいですね。

3 計画を立てて学習する

学習すべき内容を箇条書きにし、計画的に学習するために用います。書いた内容の達成度を「S・A・B・C」の4段階でセルフチェックすることもできます。

4 出願予定校調査

3年生秋になったら、こんなことまで考えねばならないのか、というイメージをつけるために、1・2年生にも見ておいてほしいシートです。3年生は言うまでもありません。

★【ワンポイントアドバイス】

自分の進むべき道について、どうしようかなと考えたり、受験校を決めたりすることも「進路を考える」ことですが、次の点を忘れずに「考えて」いきましょう。

①比較

自分の可能性がただ一通りということはありません。例えば、看護師と理学療法士とで迷っている人もいることでしょう。迷っていいと思います。真剣にその違いを比較してみましよう。いや、比較するまでもなく、看護師に決めたんだと言う人も、受験校はいくつか比較できるでしょう。進路に関しては何らかの比較がとても大切です。

②志望理由を自分の言葉で誰かに伝える

面接が受験において科される人はこの「志望理由」は必須です。しかし、面接のない人もこの志望理由を誰かに語ることができるでしょうか。ご立派な志望理由などいりません。借り物の言葉で、借り物の考えを述べることは面接において、一番してはならないことです。

それはさておき、面接が科されない人も、自分がその進路になぜ決めたのか、それをきちんと話すことが大切です。例えば、こういう先輩もいました。その先輩は、どうしても自分の進みたい道を見つけられずにいました。いろいろ比較したり、調べ直したりと本人も頑張っていました。なかなか煮詰められずにいました。そこで、北大の総合理系への進学を決めました。北大の総合理系の1年次は、全員教養科目を受け、1年次の学びをもとに、2年次以降どの学部学科に所属したい希望調査があります。成績順にどの学部学科に所属するかが決まりますから、必ずしも自分の希望通りになるとは限らないのですが、大学での学びや刺激に期待し、1年間かけて自分の進路を考えたいから、北大総合理系への進学を本人は決めました。その先輩は北大に合格し、頑張っています。こんなの志望理由になるのですか、という声が聞こえてきそうですが、この先輩にとっては、これが志望する理由なのです。

たしかに、高校生のうちに、もっときちんと考えられればいいのですが、この先輩は、怠けていたわけではなく、本当に煮詰めることができなかったのですから、仕方ありません。保護者の方にも本人がそのあたりの事情をきちんと話をし、保護者の方も納得の上で進学を決めました。

極端な例を出してしまいましたが、面接試験の有無など関係なく、受験校や受験する分野の結論を話すことも大切ですが、保護者の方・教員・友人等に「どうしてその進路にしたいのか、入学できたら何をしたいのか。」だけでも「自分の言葉で語って」ほしいと思うのです。教員とは面談があると思いますから、そこで、教員に自分の言葉で話してみしてほしいのです。うまく話せなくても、迷いも含めて自分の考えを話してみましよう。

「自分は進路について考えが足りなかった」と自分で漏らす先輩の多くは、このプロセスを踏んでいないことが多いのです。

この①比較②志望理由を語るの2点を実行するときに、この「進路のしおり」は役立つと思います。